

大学図書館研究会・群馬県図書館協会専門研修

(群馬県大学図書館協議会・群馬県図書館協会 共催)

<平成24年度第2回>

テーマ：「件名標目の今日的な意義と課題」

日 時：平成25年3月8日（金）14時00分～16時30分

場 所：群馬大学（荒牧キャンパス）教養教育GC棟 301教室（視聴覚教室）

参加者：23名（大学図書館21名、公共図書館2名）

講 演：「件名標目の今日的な意義と課題 — NDLSH を例として —」

国立国会図書館 収集書誌部収集・書誌調整課 課長補佐 大柴 忠彦 氏

【概要】件名標目の今日的な意義と課題について、国立国会図書館件名標目表(NDLSH)を例に説明があった。まず、セマンティック・ウェブ対応を視野に入れ、NDLSH を Linked Data として提供する国立国会図書館の新しいシステム Web NDL Authorities の紹介があった。次に、NDLSH の維持管理について、特に、標目新設のプロセスについて紹介があり、併せて米国会図書館件名標目表(LCSH)及び日本図書館協会による基本件名標目表(BSH)との連携(NDLSH との統合)について触れられた。そして、最後に、NDLSH に係る今後の課題と将来展望について説明があった。

これまで、NDLSH が必ずしも他機関の「知」の主題アクセスポイントになっているとは言い難い、との自己評価から、国立国会図書館では、転換点となる2004年の改訂作業がスタートする。改訂方針としては、これまでなかった①シソーラス化：「をも見よ」参照の導入、シソーラス構造(BT, Nt, RT)の入力、②語彙の増大：語彙を積極的に新設、「を見よ」参照の充実、③汎用性の確保：適切な言葉の採用、NDC9版分類記号の入力、BSH, LCSH との連携、④ルールの明示：スコープノートの充実、「国立国会図書館件名作業指針」の作成・公開、等により「活用されるNDLSH」を目指したとのこと。また、NDLSH の汎用化の課題として、現在、児童書、ムック等を除く和図書のみとした付与対象を拡大する必要性について、また、複雑で利用者にとって難解な細目を結び付けていく事前結合方式の妥当性についても言及された。

<参加者の意見等>

これまで、研究会では、「分類」「目録」、そして今回の「件名標目」と図書館業務のベースとなるテーマを取り上げてきたが、研究会のテーマについては、参加者を考慮して、講演中心の説明解説的な「より専門的なテーマ」と演習中心の実務的な「より一般的なテーマ」とを交互に実施したらどうかとの意見もある。今回のテーマ「件名標目」については、参加者の声にも、「難しいテーマ」「インターネット時代に今更件名か」と言った事前の印象から、「件名標目(NDLSH)を新しい目線で見えていく良い機会になった」「業務に活用できそう」「利用者はどう紹介していくべきか考えていきたい」「実務に大変役立つ情報が得られた」等々の変化が見られ、「より専門的なテーマ」採用の妥当性が裏付けられた。出来れば、他館種とも日程調整し、より多くの参加者にもこうした「件名標目」についての「偏見」を払拭していただけたら良かったのではと悔やまれた。

